

恙虫病について 3

埼玉県におけるツツガムシ調査

恙虫病を媒介するツツガムシの生息状況、リッケチア保有状況などを把握することは、本疾病の予防対策を行う上でも重要で、本県でも10年以上にわたって、調査を行ってきた。今回は、県内で捕獲した野ネズミにおける恙虫リケッチア抗体陽性調査及び恙虫リケッチア保有状況の調査について述べる。

1. 恙虫リケッチア抗体調査

調査によって捕獲された野ネズミの血清について、蛍光抗体法及びペルオキシダ - ゼ反応による恙虫病リッケチア抗体の検査を行った。陽性判断は、Gilliam、Karp、Kato、Kawasaki及びKurokiの5株のうちいずれかの抗原に対してIgGまたはIgMの力価が20倍以上の反応を示した血清を陽性とした。

その結果、検査頭数 631頭中 331頭 (52.5%) が陽性反応を示した。陽性検体のうち、単独の株が最高力価を示したものは 225検体(68.0%) で、その内訳は、Gilliam20検体(8.9%)、Karp 163検体(72.4%)、Kato 7 検体(3.1%)、Kawasaki 18検体(8.0%) 及びKurokiが17検体(7.6%) であった。一方、残りの 106検体 (32.0%) は2～4株に対して同じ力価を示した。このことから、埼玉県内の恙虫病リッケチア株は、Karp株が極めて高率に検出された。また、血清抗体陽性の野ネズミが捕獲された県内の地域分布とフトゲツツガムシ及びタテツツガムシとの分布がよく一致した。

2. 恙虫リケッチア保有状況調査

野ネズミからの恙虫リケッチア *O. tsutsugamushi* の分離検査を実施した捕獲野ネズミ98頭のうち、分離に成功したのは 15頭 (15.3%) であった。また、血清検査で陽性反応を示した 47検体のうち、分離に成功したのは15検体 (31.9%) であった。

図は、過去9年間にわたって県内各地において恙虫リケッチア抗体陽性ネズミが捕獲された地理的分布を示したものである。これによると、県内各地で広域に恙虫リケッチア抗体保有野ネズミが認められた。



○ : 河川沿 (● : 抗体陽性ネズミ捕獲)
□ : 河川以外 (■ : 抗体陽性ネズミ捕獲)